

## ウコンノメイガ

### 1 発生生態

#### (1)見分け方

成虫の体長は 12mm 前後、翅を開いた長さが 25～30mm の小型の蛾で、全体に淡い黄褐色～灰褐色である。

#### (2)発生のようす

幼虫で越冬し、春はイラクサ科のアカソやカラムシで育つ。そこで羽化した成虫は、7 月中旬から下旬にかけてダイズなどのマメ科植物に飛来し産卵する。幼虫によるダイズの食害は 8 月に多い。羽化した成虫は再びアカソやカラムシに産卵する。

幼虫は葉をロール状に緩く巻き、その中で葉を食害する（写真 1）。一頭の幼虫が食害しながら別の葉に移り、数枚の葉に被害を与える。発生が多い時は、全ての葉が被害を受け、食害を受けた部分は褐変して枯死する。このような場合は、葉が早期に黄化して落葉するので減収になるが、子実への直接の加害はない。

本県では、2006 年に会津を中心に突如被害が多くなり、以降しばしば発生の目立つ年があったが、近年は問題となる発生量にならないで推移している。

### 2 防除方法

防除を実施する場合は幼虫の発生初期に行う。



写真 1 幼虫によるダイズの葉巻



写真 2 ウコンノメイガ幼虫